

# バードリサーチ ニュース

2013年12月号 Vol.10 No.12

*Phoenicurus aureoreus*  
Photo by Toshifumi Miki



## 参加型調査

### カモ類の性比 東アジアフライウェイ国際調査

神山和夫

カモ類の性比にはしばしば偏りが見られます。特にホシハジロにおいて顕著で、ヨーロッパの研究では北の越冬地ほどオスが多くなることが示



写真. ホシハジロ

[Photo by 矢嶋興一]

されています。しかし、東アジアを渡るカモ類については、これまで調査されたことがありません。

そこで2014年1月に、日本、韓国、台湾、香港のガンカモウォッチャーが連携して、北緯22~45度の広範囲でカモ類の性比を調査することになりました。果たして、緯度によって性比は異なっているのでしょうか？ この調査はどなたでも参加できますので、ぜひお近くの湖沼でカウントしてみてください！

調査の詳細・結果報告は下記URLをご覧ください。

[www.bird-research.jp/1/kamo/](http://www.bird-research.jp/1/kamo/)

### ● 調査方法

調査期間：2014年1月5日(日)~19日(日)

1月12日(日)が推奨調査日です。気象状況の変化によるカモ類の移動の影響を減らすため、なるべくこの日に調査してください。

※環境省のガンカモ類の生息調査(ガンカモ一斉調査)と同じ調査期間なので、ぜひ合わせて調査してください。

調査地：

- いずれかの種のカモが100羽以上いる湖沼
- オシドリ・ヨシガモ・オカヨシガモ・ハシビロガモ・アイサ類がいる湖沼は100羽以上の種がいなくても調査地になります(これらの種はもともと個体数が少ないため)

調査方法：

100羽以下の種も含め、すべての種のオス・メス別の個体数をカウントしてください。

※数が多くて全個体のカウントが難しい場合は、可能な数をサンプル調査してください。その場合、全数の大ざっぱな数(百~千羽単位)をお知らせ下さい。

報告方法：

- [gankamo@bird-research.jp](mailto:gankamo@bird-research.jp) まで調査日・湖沼名・位置(住所か経緯度)、種名、雌雄数をお知らせください。
- 形式は自由ですが、記録数が多いときは左記URL内の報告用Excelファイルをお使いください。
- いただいた情報は原則公開させていただきます。(非公開をご希望の場合はお知らせください)

## お知らせ

### 「日本のタカ学」 著者割価格で購入できます

植田睦之

タカ類の分布や環境利用、行動圏と資源利用、渡り、保全と管理について、18人の研究者が参加してまとめた「日本のタカ学」が出版されました。ぼくも「ツミの分布と環境利用の変遷」「オオワシとオジロワシの渡り」の2つの章を担当しています。

1990年代後半から、タカ類の研究は活発になり、日本鳥学会の大会などで多くの成果が発表されてきました。しかしその中には印刷物になっていない成果も多く、近年の日本のタカ類の研究成果をまとめて読める本はありませんで

した。本書は、大学の研究者から民間で研究されている方まで、各分野の代表者が執筆を担当し、最新の研究成果を含めてまとめた、タカ類に興味のある方にとっては必読の本だと思います。定価は5250円(税込)ですが、バードリサーチ会員の皆様には2割引の4200円(税込)でご提供いたします。ご希望の方は下記のPDFをご覧ください。お申し込み期限は2014年3月31日です。ぜひお申し込みください。



「日本のタカ学」  
樋口広芳編  
東京大学出版会

「日本のタカ学」のご案内

<http://www.bird-research.jp/1/taka1.pdf>

# お知らせ

## バードリサーチ調査研究支援プロジェクト ～寄付＆投票のお願い～

高木憲太郎

調査研究支援プロジェクトでは、みなさんから少しずつの寄付を募り、それをもとに鳥の調査や研究に対して支援を行ないます(図)。そこで、支援して下さるみなさんと、鳥類の調査や研究をしているひととをつなぐ工夫をしています。寄付していただく際は、応援したい支援先を選ぶことができます。支援していただいた方には、調査研究の成果報告が届きます。鳥類の調査・研究をみんなで支え合いながら、発展させていける仕組みになればと思っています。ご協力、よろしくお願いいたします。

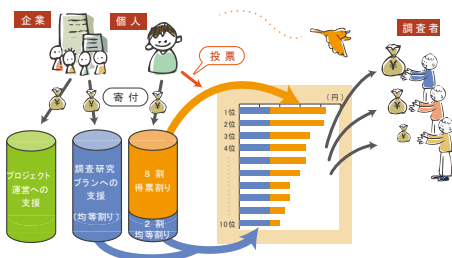


図. 集まった寄付のうち、2割を支援先に均等に分配し、8割を得票数に応じて支援先に分配します。またこれに加えて、企業からいただいた寄付を支援先に均等に分配します。

### 1. 選ぶ

バードリサーチが募集し、一次選考によって選んだ8件の調査・研究プランの中から、応援したいプランを選んでください。

### 2. 寄付

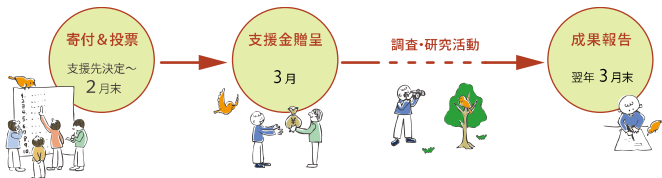
個人一口

3,000円

\*何口でもOKです。

### 3. 投票

1口の寄付に対して1票をお預けします。寄付が複数口の場合、ひとつのプランに何票投票しても構いませんし、複数のプランに投票することもできます。投票先を指定しない寄付も大歓迎です。



## 寄付＆投票の方法は次の2通りです

### ● クレジットカードで寄付を送る場合

下記のホームページをご覧ください。

### ■ 調査研究支援プロジェクト 寄付募集ページ

[http://www.bird-research.jp/1\\_event/aid/kifu.html](http://www.bird-research.jp/1_event/aid/kifu.html)

### ● 銀行または郵便局から寄付を送る場合

#### Step1. メールする.

次の情報を高木( [takagi@bird-research.jp](mailto:takagi@bird-research.jp) )宛てにメールでお伝えください。

- ・お名前とご住所
- ・寄付口数
- ・支援する調査・研究プランと投票数
- ・あなたのお名前を支援先に伝えて良いかどうか

#### Step2. お金を振り込む.

下記のいずれかの口座に合計額を振り込んでください。(振り込み手数料はご負担ください。)

ジャパンネット銀行 (銀行番号0033)

本店営業部(支店番号001) 普通 8148578

名義: トクヒ)バードリサーチ

郵便振替口座

記号番号: 00150-9-685654

名義: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

郵便貯金(ぱるる口座)

記号番号: 10120-49233551

名義: 特定非営利活動法人 バードリサーチ



## 支援先の調査・研究プランのご紹介

今年は支援先として、17件の調査・研究プランが集まりました。立教大学の上田恵介教授、山階鳥類研究所の尾崎清明副所長、日本野鳥の会の金井裕参与、慶應義塾大学の樋口広芳特任教授、バードリサーチの植田睦之代表の5名で一次審査を行ない、8件の支援先を選定しましたので、各プランの概要をご紹介します。プランの詳細はホームページにPDFで掲載しています。

[http://www.bird-research.jp/1\\_event/aid/BR-aid2013plans.pdf](http://www.bird-research.jp/1_event/aid/BR-aid2013plans.pdf)

### 001 ベトナム戦争・鳥たちの復興

越山洋三

ベトナムでは、ベトナム戦争で使用された枯葉剤によって失われたマングローブ林を植林によって取り戻そうと国やNGOが奮闘しています。申請



者は、こうした活動を行なうNGOのひとつ「南遊の会」の活動に協力してベトナムに赴き、年々変化していくマングローブの植林地の鳥類相を記録したいと考えています。マングローブ林に生息している鳥たちの写真を撮り、イラストを作成しておき、将来的には、南遊の会が作成するマングローブ林を紹介する冊子に鳥の情報を盛り込めるようにするという計画です。



### 002 利根川中流域の水田等で繁殖するタマシギ分布調査計画

タマシギ探し隊代表 明日香治彦

タマシギは水田や蓮田、休耕田に生息しており、内陸性湿地の環境の変化や農業政策の変化の影響を受けやすく、個体数の減少が心配されています。しか



# お知らせ

し、夜行性ということもあり、その生息状況は十分把握されていません。明日香さんたちは、この鳥の生息が確認されている利根川中流域の水田や蓮田で夜間調査を行ない、メスの分布とそこに集まるオスの個体数や、ヒナの数調べようと計画しています。

## 003 闇夜の湿原から聞こえる謎の声

—北海道のクイナ類・草原性小型サギ類の分布状況を探る—  
松岡和樹・他6名

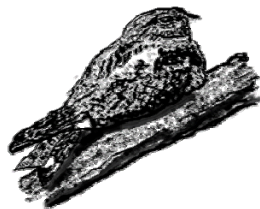
松岡さんたちは、クイナ類や小型のサギ類の生息地である湿原の保全のために、これらの鳥類の生息状況を調査する方法を開発し、北海道における分布を明らかにしようと考えています。これらの鳥は、夜間に活発に鳴きますが、どのような声のパターンを持っているのかわかっていない種も多いのです。そこで、自動録音によって声を記録し、声紋分析を行なってそれぞれの種の鳴き声のパターンを把握し、プレイバック法によって分布を調査する計画です。



## 004 プレイバック法を用いた北海道のヨタカの広域分布調査

河村和洋

ヨタカは、草原や低木林といった解放地が散在する森林を好む夜行性の鳥ですが、個体数の減少が心配されています。河村さんは、北海道内の複数の異なる環境でプレイバック法を用いた生息の確認を行ない、土地利用や地形、気候などに加え、発見率を考慮したモデルを用いることによって、北海道全域のヨタカの分布を調査する計画です。また、この成果をもとに、ヨタカの生息地の創出のための林業活動への提言につなげていきたいと考えています。



## 005 参加型！日本全国ツバメ羽色の地域差研究

長谷川克

北日本のツバメは南日本のツバメに比べて白斑が大きい代わりに喉の赤い部分の面積が小さいことが、標本を用いた研究から示されており、北と南で異なる選択圧が働いている可能性が考えられます。しかし、標本では退色の影響や、サンプル数が増やせないことがあるため、緯度にとまらなくてどのように羽色が変わっているのか調べることはできません。長谷川さんは、捕獲することなく、写真撮影のみでツバメの羽色を全国で比較する方法を考案し、ツバメの羽色の全国調査を企画しました。



## 006 「カッコいい」パパはなぜ「デキル」パパ？

—サンコウチョウの3タイプの雄の比較— 大井沙綾子

大井さんは、サンコウチョウのオスに形態の異なる3タイプの個体がいることに着目し、この違いが年齢によるものなのか、それ以外の要因によるものなのかを調査し、タイプ間の優劣関係や巣立たせることができるヒナの数の違いなどを調査する計画です。これによって、年齢によって羽の色が変化することの意義や、背中が黒紫色で尾羽の長いオスが他の尾羽の短い2タイプのオスよりも繁殖成功率が高い理由を明らかにしようと考えています。



## 007 アリスイの首振り行動の謎にせまる

橋間清香・加藤貴大

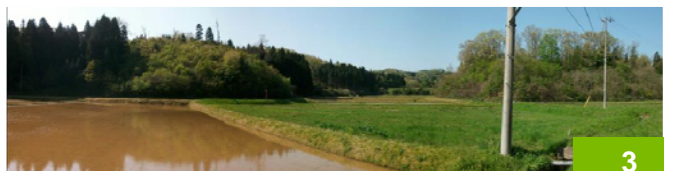
アリスイはキツツキの仲間ですが、自分では巣穴を掘らないことなど、他種とは異なる生態を持っています。そして、首をひねるように振る奇妙な行動をすることが知られています。この行動は、捕食者などに対する威嚇ではないかと考えられていますが、科学的に調べられたことはありません。そこで、巣の内外をビデオで記録し、捕食者や巣場所の競合種に対してアリスイやそのヒナがこの行動をするかどうか、またヒナが何日齢からこの行動をするようになるのかを調査する計画です。



## 008 山地に生息するサシバの餌特性は本当に山地であることが要因なのか

今森達也・野中純

サシバは本来は主に平地から丘陵地にかけての水田と林がそろった里山環境に生息する猛禽類です。しかし、近年水田がほとんど存在しない山間部や山地の溪谷にも分布していることがわかってきました。水田でカエルを捕食していることが多いサシバですが、山地では何を捕まえているのでしょうか？昨年今森さんは、長時間録画できるカメラや電源のセットを準備して、巣にカメラを仕掛けることで、親鳥がヒナに与える餌を調査し、その特徴を捉えました。しかし、昨年は里山の調査地でサシバが繁殖しなかったため、山地と里山の比較ができていません。今年はその比較に加えて、石川県と関東の比較も試みる計画です。



## 参加報告

### 日本動物行動学会第32回大会

高木憲太郎

2013年11月29日～12月1日に広島大学で開かれた日本動物行動学会第32回大会に参加してきました。日本動物行動学会は学生や若手の研究者が多く集まる学会です。ポスター発表が中心で、ほかに動物の行動を動画で発表するビデオ講演があります。ポスター発表でも、ノートパソコンやタブレット端末で動画を見せながら発表している人を多く見かけました。以前は昆虫の発表が多い印象でしたが、久しぶりに参加してみると、多様な分類群の研究がバランスよく発表されていると感じました。僕が聞いてきた中からひとつ、これはすごいなあと感じた発表をご紹介します。



写真。ポスター会場のような様子。

### 実測データに基づくユリカモメの群れ行動の解析

○右衛門佐誠・水口毅・早川美徳

ガン類などがV字編隊を組んで飛翔することは雁行と呼ばれる、そうすることで飛翔のエネルギー消費を抑えているという話はよく知られています。しかし、群れで飛ぶ鳥の1羽1羽の行動を詳細に分析し、そこからエネルギー消費を抑えるメカニズムを解析することは、理論上は可能でも、野外で調査することは簡単ではありません。右衛門佐さんたちは、飛翔する鳥の相対的な位置を3次元で再現できるステレオカメラのシステムを開発し、2010年の冬に大阪の大和川の河口近くを群れで飛ぶユリカモメを対象に研究を行いました。その結果、雁行している時だけでなく、一見無秩序に見える群れでも、近接している個体とは、常に翼開長と同じだけ水平方向にずれて飛んでいることを発見しました。また、ある個体の後ろを飛ぶ鳥は、前の個体との距離に応じて羽ばたきのタイミングをずらしていることも分かりました。雑然と群れ飛んでいるように見えるユリカモメたちが、前を飛ぶ個体から生まれる気流を巧みに利用していたことに驚きました。動物行動学会では、鳥学会ではあまり見ることができないこのような工学系の研究者の視点やアプローチにふれられるので新鮮です。

## 活動報告

### 10周年記念集会開催しました

神山和夫・高木憲太郎・青山夕貴子

12月22日、立教大学にて、バードリサーチ10周年記念集会を開催いたしました。三連休の真ん中にもかかわらず、121名の方がご参加くださり、満員御礼となりました。来て下さったみなさま、本当にありがとうございました。

バードリサーチからは、この10年の参加型調査について高木が、またシギチドリ類調査と、“どうしたら調査仲間を増やしていけるか”について守屋が講演したほか、立教大学の上田恵介先生、NHKの自然番組のディレクターをされている足立泰啓さん、立教大学大学院生の加藤貴大さんと橋間清香さんにご講演いただきました。

上田先生は、なぜ鳥に興味を持ったのかというところから、セッカを研究対象に選んだ理由、調査での苦労話など、自身の研究者人生について、時代を感じる白黒写真や豊富な研究成果とともに語っていただきました。今なら自動撮影カメラですませしまうような調査も、ひたすら調査地に通り、草陰に身を潜めて目視で調査されてきた上田先生。フィールドで、自分の目で肌で、研究対象の生態に迫ることが他の誰にもできない発見を導き、研究のセンスを磨くというメッセージが心に響きました。

足立さんは、人気番組「ダーウィンが来た！」の番組制作をされていて、講演では貴重な撮影裏話を聞かせていただきました。「誰も見たことのない映像」を撮るために、あらゆる工夫を惜しまない姿勢には大いに刺激をもらっ

とことができました。

加藤さんと橋間さんの発表してくださったアリスイの研究の一部は、今号の2～3ページでもお知らせしているバードリサーチ調査研究支援プロジェクトで一昨年支援させていただいたものです。捕獲されたアリスイや、巣の中のヒナが首をくねくね回す映像には皆がひきこまれました。微力ではありますが、バードリサーチが支援させていただいた研究でこのような面白い成果を出してくれたことを嬉しく思うとともに、今後の研究のさらなる発展に期待したいと思います。

多くの方々に支えられ、見守られてここまで来たことを再認識し、これからもみなさんと一緒に、さまざまな活動を展開していきたいと思っています。今後もバードリサーチの活動にご協力をお願いいたします。



写真。予想を上回る数の方にお越しいただき、会場がぎゅうぎゅうになってしまいました。窮屈な思いをさせてしまって申し訳ありませんでした。

講演内容は動画配信サービスUSTREAMを使ってインターネット配信しており、バードリサーチホームページからもご覧いただけます。

[http://www.bird-research.jp/1\\_event/10th\\_anniversary.html](http://www.bird-research.jp/1_event/10th_anniversary.html)

## お知らせ

**海ワシ類の写真提供のお願い**  
 ~風車へのバードストライク軽減のための  
 ワシ自動認識システムの開発にご協力ください~

植田陸之

北海道では風力発電施設でのオジロワシの衝突事故が問題になっています。この問題の軽減のために、環境省の「海ワシ類における風力発電施設に関わる調査」の一環として、東京大学飯田研究室や日本気象協会と共同でワシ自動認識システムの開発を進めています。このシステムが完成すれば、風車にワシが近づいてきたときに風車を停止したり、風車の建設計画を立てる上で、少ない労力でその場所のバードストライクの危険性を予測できるようになることが期待されます。

このシステムの開発のために、コンピュータに何がワシで何がワシでないかを学習させる必要があります。そのための画像情報をご提供いただけませんか？正面、横、斜め、後ろなどさまざまな角度からのワシの写真、またワシと間違えやすい鳥の写真も募集しています。結果を報告書や論文でまとめる際には、お名前を記載させていただくとともに、印刷されましたらそれをお送りさせていただきます。

今冬ワシを見に行かれる方は、ぜひいろいろな角度のワシの飛行写真を撮ってお送りください。

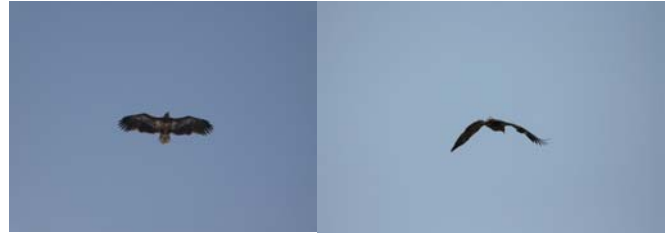


写真1(左)と写真2(右)。

写真1のような普通の写真より、後ろ向きの写真2のようなあまり普通でないカットがあると嬉しいです。  
 [Photo by 越智葵 (写真2)]

**いただきたい写真:** オジロワシ, オオワシ, ノスリ, トビ, ほか猛禽類, およびそれと間違えそうな中大型の鳥(オオセグロカモメなどのカモメ類, ハシブトガラス, ハシボソガラス, ハト類)の飛行写真。いろいろな角度で写っているものをお送りください。

**画像形式:** JPEG形式

**送付方法:** 数が少ない場合はメール, 多い場合はDVDなどで郵送してください。フォルダ名を種名にし, その中に画像ファイルを入れて, メールの場合はZIPなどで圧縮していただき, DVDの場合はそのままお送りください。

メールでの送付先: [photo@bird-research.jp](mailto:photo@bird-research.jp)

郵送先: 〒183-0034 東京都府中市住吉町1-29-9  
 バードリサーチ 植田陸之

お問い合わせ先: [mj-ueta@bird-research.jp](mailto:mj-ueta@bird-research.jp)

## 図書紹介

## ペンギンはなぜ飛ばないのか？

綿貫 豊 著／恒星社厚生閣 定価 2,600円(税別)



ペンギンはなぜ飛ばないのか？そこには、物理的に飛ばない理由、飛ばない方が有利だという適応的な理由、どのようにして飛ばなくなったかという進化的な理由があります。本書では特に物理的な理由を中心に、適応的・進化的な理由についても述べられています。

タイトルにペンギンとありますが、本書ではペンギンだけでなく、ペンギンを含む多様な海鳥の飛翔や潜水行動について解説されています。例えば、体重10キログラムを超えるワタリアホウドリが、上昇気流もない海上ではばたきもせず飛び続けることができるのはなぜなのか。長時間の潜水を可能にする、ペンギンをはじめ潜水性の海鳥の体の秘密とは？本書を読むと、海鳥がどんなに高度な飛行術・潜水術をもっているか、海鳥の体があるためにどんなによくできているかに驚かされます。

一方で、海あるいは空の生活に適応した海鳥たちは、陸

での行動はあまり得意ではありません。歩くのがぎこちなかったり、飛び立ちが苦手だったり。このような海鳥たちは、人間にとって格好の獲物となってきました。最後の章では、ペンギンによく似た絶滅鳥・オオウミガラスをはじめとする海鳥たちの悲劇について述べられています。

本書は、「もっと知りたい！海の生きものシリーズ」のひとつ。このシリーズは、中高生の理科ばなれ、生き物ばなれに目を向け、この世代に向けて、海の生物の専門家が最先端の研究成果を解説するというコンセプトで刊行されているようです。そのコンセプトの通り、内容は高度ながら、読みやすく平易な文章が心がけられています。ぺらぺらとめくってみると、文字だけのページは少なく、図や写真をたくさん使って理解を助ける工夫がされています。しかも全カラーページ。またコラムとして離島や南極での調査のようすが紹介されていたり、科学するうえでの考え方などにも触れられています。子どもたちが「こんな生き方もあるんだ」ということを知り、もっと自由に将来を考えてくれればと思います。大人が読んで知らないことばかりなので、ぜひ親子で読んでみてはいかがでしょうか。

【青山夕貴子】

## 会員情報

### アクセス数が多いのは「鳴き声図鑑」

10周年を迎え、バードリサーチの会員は1641名になりました。ホームページのアクセス数も、順調に伸びています。

特に春はアクセスが集中します。実は、HPのアクセス数は「鳴き声図鑑」のページのアクセス数と同調しています。春にさまざまな鳥のさえずりが聞かれるようになると、「鳴き声図鑑」を訪れてくださる方が多くなるようです。12月26日現在、245の種や亜種の鳥の、さえずりや地鳴きなど、546の音源が収録されています。ご活用ください。

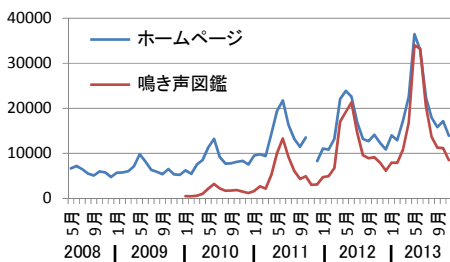


図. ホームページおよび鳴き声図鑑のアクセス数。2011年11月にシステムを変更したため、前後でカウント方法が若干異なる。

### 研究誌 Bird Researchの冊子版 原価でお分けします（普通・賛助会員限定）

Bird Research第9巻は8本の論文を掲載することができました。これらの成果をより多くの方にも知ってもらうため、鳥関係の研究室や団体への寄贈用として冊子版を印刷します。一般販売はしませんが、バードリサーチ会員特典として、ご希望の方には、実費にてお分けいたします。価格は送料を含んで、700円です。



申し込みの締め切りは1月10日です。ホームページ [http://www.bird-research.jp/1\\_event/br.html](http://www.bird-research.jp/1_event/br.html) の送信フォームより、お申し込みください。

【植田睦之】

■掲載論文はこちらでご確認ください。

[http://www.bird-research.jp/1\\_kenkyu/journal\\_vol09.html](http://www.bird-research.jp/1_kenkyu/journal_vol09.html)

### 2014年度会費の振込みのお願い

1月から新しい会員年度になります。普通会员以上の会員区分を継続していただける場合は、お早めに新年度の会費の納入をお願いいたします。お支払方法は右記の通りになります。なお、郵便貯金口座からの自動引き落としも行なっています。新年度から新たに自動引き落としを希望される方は、下記のインフォメーションまでメールでご連絡ください。

会費の納入がない場合は、協力会員と同じ扱いとなり、新年度のニュースレターと研究誌Bird Researchの本文の閲覧ができなくなりますが、調査結果の報告は可能です。今後も調査へのご参加ご協力をお願いします。

バードリサーチ調査研究支援プロジェクトにご寄付いただける方は、今号の2～3ページをご覧ください。合わせてお振込みください。

#### 会員の種別と会費

普通会员A（ニュースと研究誌）	3,000円
普通会员B（ニュースのみ）	2,000円
賛助会員（ニュースと研究誌）	10,000円

バードリサーチ事務局 インフォメーション  
E-mail: [br@bird-research.jp](mailto:br@bird-research.jp)

### ● お支払い方法

#### 1. 口座へのお振込

下記のいずれかの口座へお振込ください。

##### ジャパンネット銀行（銀行番号0033）

本店営業部(支店番号001) 普通 8148578  
名義: トクヒ)バードリサーチ

##### 郵便振替口座

記号番号: 00150-9-685654  
名義: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

##### 郵便貯金(ばるる口座)

記号番号: 10120-49233551  
名義: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

注) 申し訳ございませんが、振込み手数料はご負担ください。

#### 2. クレジットカードによるお支払い

下記のページをご覧ください。

[http://www.bird-research.jp/1\\_nyukai/pay.html](http://www.bird-research.jp/1_nyukai/pay.html)

バードリサーチニュース 2013年12月号 Vol.10 No.12

2013年12月27日発行

発行元: 特定非営利活動法人 バードリサーチ  
〒183-0034 東京都府中市住吉町1-29-9  
TEL & FAX 042-401-8661  
E-mail: [br@bird-research.jp](mailto:br@bird-research.jp) URL: <http://www.bird-research.jp>

発行者: 植田睦之 編集者: 青山夕貴子・高木憲太郎

表紙の写真: ジョウビタキ